

横山大観筆「荒川絵巻（部分）」（大正4年、株式会社ヤマタネ所蔵）

春期企画展

—田山花袋が絶賛した溪谷美—

玉淀

Tama-yodo

今昔物語

Stonewy



玉淀の船遊び（昭和8年、中島紳介氏所蔵）



玉淀水天宮祭

2019年

3月9日^土 …… 5月12日^日

開館時間 / 9:00 ~ 17:00

休館日 / 月曜日（4月29日と5月6日は開館）

後援：寄居町・東武鉄道株式会社・秩父鉄道株式会社



スロープ展 | 玉淀の動植物

2/5（火）～6/16（日）

一般 ▶ 410円（240円）

学生・高校生 ▶ 200円（120円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方は無料



企画展「玉淀今昔物語」のサテライト展示。玉淀とその周辺で見られる動植物を、剥製や写真で紹介いたします。

カワセミ（木島宏氏提供）

埼玉県のマスコット
コバトン



埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町小園39
TEL.048-581-7333 FAX.048-581-7332
URL▶ <http://www.river-museum.jp/>
E-mail▶ web-master@river-museum.jp
Twitter▶ <https://twitter.com/kawashirou/>

玉淀今昔物語

Tamayo do Story

—田山花袋が絶賛した溪谷美—

荒川には「玉淀」という名の景勝地（埼玉県指定名勝）があります。かつて「玉淀」は長瀬と並ぶほどの溪谷美に加えて、鮎漁と桜並木でも知られ、多くの観光客や文人墨客でにぎわいを見せていました。対岸の崖上には、戦国時代に築かれた鉢形城の遺構があり、そこからの眺望は、作家田山花袋が「東京附近で、これほど雄大な眺めを持った峡谷は他にはない」と絶賛したほどすばらしいものでした。

しかし、高度経済成長期を中心に盛んに行われた砂利採取や、昭和39年（1964年）に完成した玉淀ダムによって景観が大きく変わってしまいました。展示では人との関わりを中心に、その変化を紹介します。

展示構成

- 1 玉淀とは？
〈コラム〉江戸時代の玉淀
- 2 桜と船遊び
- 3 訪れた文人たち
〈コラム〉鮎漁と鮎料理
- 4 砂利採取と玉淀ダム
- 5 描かれた玉淀
- 6 玉淀の祭り
- 7 玉淀の今



「玉淀碑」拓本（今宮神社所蔵）



7代目松本幸四郎の隈取り（佐々利典氏所蔵）



荒川いかだ下り

関連イベント 《詳しくはホームページ参照、もしくはお問い合わせください》

①玉淀散策と鮎飯

3月29日 金 10:00~15:30

- 定員：20名
- 参加費：5,000円
- 要事前申込み

文人たちの足跡を追って荒川沿いを散策し、割烹旅館「京亭」で鮎飯を味わいます。午後は鉢形城跡などを見学し、城跡に咲く「氏邦桜」（江戸彼岸桜の大木）を鑑賞。

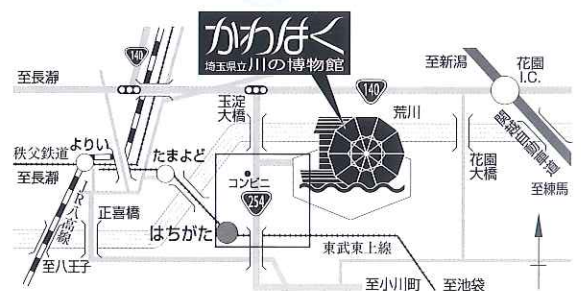


②玉淀と鉢形城にまつわる民話を聞く会

4月13日 土 13:30~15:00

- 定員：70名
- 参加無料
- 要事前申込み

「よりの民話研究会・民話語り“きいてみい”」の会員が地元で伝わる興味深い民話を紹介します。



- 自動車
／関越自動車道 花園ICより8分
- 電車+徒歩
／東武東上線「鉢形駅」下車徒歩20分
- 電車+タクシー
／寄居駅下車タクシーで7分
- 駐車料金
／普通車 300円・バス 1,020円

